

拓殖大学図書館所蔵の満洲語文献について

吉池孝一

拓殖大学図書館（東京都八王子市）には満洲語に関わる古文献が幾つか所蔵されている。これらの古文献の帰属は図書館と宮原文庫の二つに分かれており以下その順にしたがって簡単に紹介する。

記載事項は、おおむね河内良弘・趙展（1985）の体裁にしたがうけれども新たに幾つかの項目を付け加えた。記載事項は、1. 満文書名、2. 漢文書名（書名は内題による。それ以外のものは明示する）、3. 満文・満漢合璧等の別、4. 著者・訳者等、5. 版本・抄本の別、6. 序年、7. 出版所等、8. 刊年・書写年、9. 帙数・冊数・巻数、10. 書籍の寸法および版框の寸法、11. 保存状態（欠落・補修・補筆等）、12. 注記、13. 分類番号。なお書籍の縦横の寸法は第一冊中央部分を計測した。版框の縦横の寸法は第一巻・本文第一葉中央部分を計測したものである。序などの巻頭部分は欠落している場合があるため本文第一葉の版框寸法を用いた次第である。

図書館帰属

1. 1 : manju nikan hergen i cing wen ki meng bithe.
2 : 満漢字清文啓蒙。
版心に「清文啓蒙」とある。
- 3 : 満漢。
- 4 : 舞格著述 程明遠校梓。
- 5 : 版本。
- 6 : 雍正庚戌（1730年）。
- 7 : 本項目が記されているはずの葉がない。（三槐堂梓行本。12の注記を参照）
- 8 : 不詳。
- 9 : 一挟板（二枚の板による）、四冊、四巻。

- 10：書大：23.9×15.8 cm。版框：20.9×14.4 cm。
- 11：おおむね良好。但し第一冊第一・二・三・五葉、第二冊第一・二・三葉に少々欠落あり。
- 12：本稿 No. 8 の「三槐堂梓行」本との対照により同版であることがわかる。なお「三槐堂梓行」本の版框は 21.0×14.5 cm であり本書とはやや相違するが墨の乗り具合による誤差の範囲内と考える。落合守和（1987）の分類基準によると、甲種本（十二字頭の漢字音注に直音・反切形式が用いられる）ということになる。
- 13：829.69-(1~4)-1。
2. 1：ninggun jurgan i toktoho gisun i bithe. (表紙ウラによる)
- 2：六部成語。(表紙ウラによる)
版心に「満漢六部成語」とある。
- 3：満漢。
- 4：不詳。
- 5：版本。
- 6：不詳。序無し。
- 7：第一冊表紙ウラに「京都文盛堂梓行」とある。
- 8：不詳。
- 9：一挾板、六冊、六巻。
- 10：書大：22.2×15.1 cm。版框：18.9×14.3 cm。
- 11：おおむね良好。但し第一冊第十葉右および十一葉左に欠落あり。
- 12：特記無し。
- 13：829.69-(1~6)-5。
3. 1：manju isabuha bithe.
- 2：清文彙書。
- 3：満漢。
- 4：李延基編。
- 5：版本。
- 6：不詳。

- 7 : 第一冊表紙ウラに「京都隆福寺胡同三槐堂書坊発行」とあるけれども、本文は「四合堂」蔵版によっている。12の注記を参照。
 - 8 : 不詳。
 - 9 : 一挾板、十二冊、十二巻。
 - 10 : 書大：26.9×16.1 cm。版框：20.4×14.8 cm。
 - 11 : 良好。但し錯簡が一カ所ある。第七冊第二十五葉が、二十八葉と二十九葉の間に紛れ込んでいる。
 - 12 : 第一冊表紙ウラに「京都隆福寺胡同三槐堂書坊発行」とあるけれども、各巻の巻頭には「□□堂蔵板」とあり二字分削り取られている。第三および十、十一巻に「四合堂蔵板」とあることより、後に三槐堂が四合堂蔵板を用いて本書を刊行したことがわかる。
 - 13 : 829.69-(1~12)-2。
4. 1 : daicing gurun i yooni bithe. (表紙の題箋による)
- 2 : 大清全書。
 - 3 : 満漢。
 - 4 : 沈啓亮輯。
 - 5 : 抄本。但し版框部分は紺色の木版刷り。
 - 6 : 康熙二十二年 (1683 年)。
 - 7 : 不詳。
 - 8 : 不詳。
 - 9 : 一挾板、十四冊、十四巻。
 - 10 : 書大：27.8×18.0 cm。版框：23.7×16.6 cm。
 - 11 : 良好。但し丁数の誤記がある。第一冊第二十二の次は二十三、二十四……とあるべき所、三十三、三十四……となっている。なお、第二、四、六、七、十一冊は丁数を記さない。
 - 12 : 表紙、版框ともに紺色。満文は筆記体によって墨書されている。
 - 13 : 829.69-(1~14)-3。

5. 1 : manju bithei jy nan.
2 : 清書指南。
3 : 満漢。
4 : 沈啓亮輯。
5 : 抄本。但し版框部分は紺色の木版刷り。
6 : 康熙二十一年 (1682 年)。
7 : 不詳。
8 : 不詳。
9 : 一挾板、一冊、三卷。
10 : 書大 : 27.8×17.9 cm。版框 : 23.7×16.5 cm。
11 : 良好。
12 : 表紙、版框ともに紺色。満文は筆記体によって墨書されている。本書は、No. 4 の大清全書と同一の体裁であり、『全国満文図書資料聯合目録』で「大清全書 一四附録三卷」の附録三卷に相当するものである。
13 : 829.69-4。
6. 1 : han i araha mukden i fujurun bithe. šutucin bi.
帝王の作った盛京の賦書 (御製盛京賦) 序有り
2 : 無し。
3 : 篆書体の満文。
4 : 清高宗撰。(『全国満文図書資料聯合目録』による)。各巻末に付された満洲語序文に篆書の浄書者名が記されている。
5 : 版本。
6 : 乾隆十三年 (1748 年)。(『全国満文図書資料聯合目録』による)。
7 : 不詳
8 : 不詳

- 9 : 一挾板、三冊、三卷。三十二冊（三十二種の篆書体より成る）中の三冊のみ存する。
- borgoho tuggingge fukjingga hergen（垂雲篆）。三十二冊中の第十五冊目。
 - aihumengge fukjingga hergen（亀書篆）。三十二冊中の第二十三冊目。
 - deyere šanyangga fukjingga hergen（飛白篆）。三十二冊中の第三十一冊目。
- 10 : 書大：34.5×20.9 cm。版框：22.1×16.6 cm。
- 11 : おおむね良好。但し第二十三冊は見開き中央上部に欠落（毎葉の上端左右の角に約8 cm×6 cmの欠落）あり。別紙で補修されているけれども、欠落部分の補筆はない。
- 12 : 本書は『全国満文図書資料聯合目録』の「0542 [御制] 盛京賦」に相当する書の一部である。
- なお『聯合目録』では民国期の影印本も紹介されている。「民国二十一年（1932）大連石（ママ）文閣影印本 一冊」とある。この影印本も拓殖大学図書館に所蔵されている。分類番号は「2029-2」。南満洲鐵道株式會社編「満漢篆字各體圖版 乾隆御制盛京賦」大連右文閣。八十部限定版中の第六十八冊目で、各篆字盛京賦の最初の半葉のみを掲載するという体裁をとっている。
- 13 : C 920-(1~3)-25。挾板には「満文篆盛京賦」と墨書されている。
7. 1 : sonjofi ubaliyambuha liyoo jai jy i bithe.
2 : 擇繙聊齋志異。
表紙ウラに「manju nikan liyoo jai jy i bithe. 合壁聊齋志異」とある。
3 : 満漢。
4 : 扎克丹繙譯。
5 : 版本。
6 : 道光二十八年（1848年）。
7 : 不詳。

- 8 : 不詳。
- 9 : 四挾板、各六冊六卷、合計二十四冊、二十四卷。
- 10 : 書大 : 25.3×17.5 cm。版框 : 19.2×15.8 cm。
- 11 : 良好。
- 12 : 各冊表紙に手書きで「sonjofi ubaliyambuha liyoo jai encu ejehengge bithe.」(直訳すると「擇繙聊齋異志」ともなるうか) とある。ここでは、漢語題名の「志異」が満洲語で「encu (異) ejehengge (志)」と訳されており興味深い。
- 13 : C 923-(1~24)-1260。

宮原文庫帰属

8. 1 : manju nikan hergen i cing wen ki meng bithe.
 - 2 : 満漢字清文啓蒙。
表紙ウラに「cing wen ki meng bithe. 清文啓蒙」、版心に「清文啓蒙」とある。
 - 3 : 満漢。
 - 4 : 舞格著述 程明遠校梓。
 - 5 : 版本。
 - 6 : 雍正庚戌 (1730 年)。
 - 7 : 三槐堂梓行。
 - 8 : 不詳。
 - 9 : 一帙、四冊、四卷。
 - 10 : 書大 : 24.2×15.7 cm。版框 : 21.0×14.5 cm。
 - 11 : 良好。但し第二冊第二葉左下に少々欠落あり。朱筆の書き込みが多い。
 - 12 : 特記なし。落合守和 (1987) の分類基準によると、甲種本ということになる。
 - 13 : 829.69-(1~4)-M 1。

9. 1 : manju nikan si siyang gi bithe.

- 2 : 満漢西廂記。
表紙ウラに手書きで「manju nikan si siyang ki (ママ) bithe. 合壁西廂記」とある。
- 3 : 満漢。
- 4 : 訳者不詳。
- 5 : 版本。
- 6 : 康熙四十九年 (1710 年)。
- 7 : 表紙ウラに手書きで「文盛堂蔵板」とある。
- 8 : 不詳。
- 9 : 一帙、六冊、四卷十六章。但し、第一冊(巻一の一、二章)、第二冊(巻三の九、十章)、第三冊(巻三の十一、十二章および巻四の十三章)、第四冊(巻四の十四、十五、十六章)、第五冊(巻一の三、四章および巻二の五章)、第六冊(巻二の六、七、八章)となっている。
- 10 : 書大 : 21.0×14.0 cm。版框 : 17.0×12.0 cm。
- 11 : 欠落が多い。但し欠落部分は全て手書きによる補筆がなされている。なお、一卷二章の最終一葉、四卷十六章の後半部分、三卷十二章の全てが手書きである。
- 12 : 表紙ウラに手書きで「文盛堂蔵板」とある。これに間違いがないとすると、本書は『全国満文図書資料聯合目録』の「0583 西廂記 四卷 康熙四十九年 (1710) 文盛堂刻 16×12 cm」と同版ということになるけれども、版框の寸法は合わない。
- 13 : 922.6-(1~6)-M 7。

本稿は、対音対訳資料研究会 (1998. 9. 13. 愛知県立大学にて) で配布した資料に加筆したものである。なお、文献の調査にあたり (1997 年)、拓殖大学図書館の職員の方々にお世話になった。この場をお借りし御礼申しあげる。

参考文献

- 黄潤華・屈六生 (1991) 『全国満文図書資料聯合目録』北京 : 書目文献出版社
池上二良 (1962) 「ヨーロッパにある満州語文献について」『東洋学報』第 45 巻第 3 号。

pp. 105-121.

河内良弘・趙展(1985)「天理図書館蔵 満文書籍目録」『ビブリア』第 84 号。pp. 156-184.

落合守和(1987)「《満漢字清文啓蒙》に反映された 18 世紀北京方言の音節体系」『静岡
大学教養部研究報告(人文・社会科学編)』第 22 巻第 2 号。pp. 111-151.

落合守和(1989)「翻字翻刻《兼満漢語満洲套話清文啓蒙》(乾隆 26 年, 東洋文庫所蔵)」
『言語文化接触に関する研究』第 1 号。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化
研究所

Poppe, N. & Hurvitz, L. & Okada H. (1964) *Catalogue of the Manchu-Mongol Section
of The Toyo Bunko*. Tokyo: The Toyo Bunko & Washington: The University
of Washington Press.

拓殖大学図書館(1975)『宮原文庫分類目録』東京: 拓殖大学図書館

鄒蘭欣(1986)「満文篆書簡論」『満語研究』1986-1。pp. 75-83.